



確かな学力の向上をめざして【5月】

■中部地区の不登校を減らすために…

不登校を減らすために、中部地区各小中学校で様々な取組が進められています。しかし、右の表のとおり、不登校の出現率は、全国と比較しても高い傾向が続いています。特に中学校での出現率が高くなっています。

不登校の児童生徒を減らすことは中部地区の教育の大きな課題です。この課題を解決するための糸口を、下のデータを通して再度考えてみたいと思います。

【不登校出現率】	中部(H26)	中部(H25)	<参考> 国(H25)
小学校	0.47	0.50	0.36
中学校	3.50	3.26	2.69

	中学校1年生時の 不登校出現率	卒業時
H24入学 (現高1)	2.04(20人)	4.20(41人)
H25入学 (現中3)	3.21(30人)	
H26入学 (現中2)	1.78(17人)	

**H26年度入学生(現中2)は
中学校1年生時の不登校出現率が
例年と比較して低くなっている。**

なぜだろう？
まずは、中学校入学までが
ポイントかも…。



ポイント1

小学校中学年が重要な時期

	小学校4年時の 不登校児童数	小学校6年時の 不登校児童数
H24入学 (現高1)	6人	8人
H25入学 (現中3)	6人	16人
H26入学 (現中2)	2人	4人

現在の中学校2年生は、小学校から不登校児童数が少ない傾向が見られました。国立教育政策研究所の調査でも、中学校1年生の不登校生徒の70%近くが、小学校4年生以降に何らかの兆候を示しているという結果が出ています。
(参考資料：あした、また学校でⅢ P8)

ポイント2

スクールカウンセラーを積極的に活用し、未然防止と早期対応

早い段階でのスクールカウンセラーの関わりが、未然防止と早期対応につながります。「どうして休むのか」その背景を探ることが対応の第一歩です。仲間との関係、家庭の状況、兄弟姉妹の様子、就学前の様子などをスクールカウンセラーとともに確認し、対応を考えることが求められます。

「魅力ある学校づくり」が基本

不登校は、誰にでも、どの学級でもおこる可能性があると言われています。「わかる授業・魅力ある授業づくり」「人間関係づくり・社会性の育成」が、不登校を生まないための基本です。中部地区すべての先生方が、子どもたちにとって魅力ある学校づくりを進めていくことが重要です。

